

# 香川大学における社会教育主事講習（一部科目指定講習）の概要 および受講者アンケートのまとめと考察

大村 隆史

- I はじめに
- II 令和2年度社会教育主事講習（一部科目指定講習）とアンケート調査の概要
- III 講習の日程と受講動機について
- IV 各教科の内容と成果について
- V 講習全般について
- VI まとめ

## I はじめに

本稿は、香川大学地域連携・生涯学習センターで実施した令和2年度社会教育主事講習（一部科目指定講習）の実施概要と受講者を対象に実施したアンケート調査の結果を報告し、今後の社会教育主事講習のあり方について若干の考察をおこなうことを目的としている。

なお、香川大学地域連携・生涯学習センターにおける社会教育主事養成の経緯や状況にかんする論考として、清國祐二「社会教育主事講習のあり方に関する実証研究」（香川大学『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告』第21号、2016年3月）、大村隆史「香川大学地域連携・生涯学習センターにおける社会教育主事養成の現状と課題」（香川大学『地域連携・生涯学習センター研究報告』第25号、2020年3月）を参照されたい。

## II 令和2年度社会教育主事講習（一部科目指定講習）とアンケート調査の概要

本講習は、令和2年10月から令和3年2月にかけて6日間（10月24日、11月7日、12月5日、1月23日、2月27、28日）にわたって実施した（表1）。講習は社会教育経営論と生涯学習支援論の二科目で構成され、二科目とも受講した参加者が16名、社会教育経営論のみを受講した参加者が1名で、合計17名の参加があった。本講習修了後にはアンケート調査を実施し、講習終了直後の配布及び郵送法を組み合わせた方法で1週間程度の回答期限を設けた。調査票は17件配布して16件が回収された（16件のうち1件は社会教育経営論のみの受講者による回答）。

調査票は大きく4つの項目に分かれ、講習の日程の設定に関する項目、受講の動機を問う項目、各教科の内容の理解度と成果を問う項目、講習全般について問う項目で構成される（参考資料「アンケート調査の調査票」を参照のこと）。以下では、講習の日程と動機に関する回答、各教科の内容と成果に関する回答、講習全般に関する回答の3つに分けてそれぞれの結果を検討していく。

表1 講習日程表

	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
10月24日 (土)	〔社会教育経営論〕 社会教育行政と地域づくり マネジメント (大村 隆史)	〔社会教育経営論〕 社会教育行政と市民協働・ 住民自治 (1) (大村 隆史)	〔社会教育経営論〕 社会教育行政と市民協働・ 住民自治 (2) (大村 隆史)	〔社会教育経営論〕 社会教育計画の策定と評価 (1) (大村 隆史)	〔社会教育経営論〕 社会教育計画の策定と評価 (2) (大村 隆史)
11月7日 (土)	〔社会教育経営論〕 社会教育事業における 評価の意義と方法 (1) (大村 隆史)	〔社会教育経営論〕 社会教育事業における 評価の意義と方法 (2) (大村 隆史)	〔社会教育経営論〕 地域課題の分析と把握 (長尾 敦史)	〔社会教育経営論〕 コーディネーターの役割、 必要な知識・技術 (長尾 敦史)	〔社会教育経営論〕 学習課題を把握するための 具体的な方法 (大村 隆史)
12月5日 (土)	〔社会教育経営論〕 社会教育施設の経営 (大村 隆史)	〔社会教育経営論〕 社会教育施設のネットワーク (町田 健太)	〔社会教育経営論〕 地域課題解決・まちづくりに 取り組む人材の育成と活動支援 (神田 亮)	〔社会教育経営論〕 学習成果の評価と活用 (神田 亮)	〔社会教育経営論〕 社会教育行政における 地域広報戦略 (大村 隆史)
1月23日 (土)	〔生涯学習支援論〕 生涯発達から見た 学習者の特性 (大村 隆史)	〔生涯学習支援論〕 学習支援の原理 (大村 隆史)	〔生涯学習支援論〕 学習支援の方法・形態 (大村 隆史)	〔生涯学習支援論〕 学習プログラムの設計・運営 (大村 隆史)	〔生涯学習支援論〕 学習プログラム編成の視点 (大村 隆史)
2月27日 (土)	〔生涯学習支援論〕 学習支援方法としての 参加型学習 (1) (清國 祐二)	〔生涯学習支援論〕 学習支援方法としての 参加型学習 (2) (清國 祐二)	〔生涯学習支援論〕 参加型学習と ファシリテーション (1) (清國 祐二)	〔生涯学習支援論〕 参加型学習と ファシリテーション (2) (清國 祐二)	〔生涯学習支援論〕 学習者理解と カウンセリングマインド (清國 祐二)
2月28日 (日)	〔生涯学習支援論〕 参加型学習の実際とファシリテーション技法 (1) (清國 祐二)	〔生涯学習支援論〕 参加型学習の実際とファシリテーション技法 (2) (清國 祐二)	〔生涯学習支援論〕 参加型学習の実際とファシリテーション技法 (2) (清國 祐二)	〔生涯学習支援論〕 参加型学習の実際と ファシリテーション技法(まとめ) (清國 祐二)	〔生涯学習支援論〕 参加型学習の実際と ファシリテーション技法(まとめ) (清國 祐二)

### Ⅲ 講習の日程と受講動機について

#### (1) 講習の日程について

「参加しやすかった」と回答したものが14件、「どちらともいえない」が2件であった。「参加しづらかった」という回答はなかった(図1)。

自由記述欄では、「参加しやすかった」を選択した理由として、月一回程度という開設頻度について通常業務との調整がしやすかったこと、県外であっても都合がつけやすかったことなどがあげられている。また、「ゆっくりと学ぶことができた」という意見もあるように、ゆとりのある学び方ができたという点ともつながる開設頻度だったといえる。

さらに、土日開催という点に言及するものは、職場に迷惑をかけずに参加できたこと、土日の自己学習として参加できたことなどといった記述がなされている。「どちらともいえない」を選択した理由としては、上記の理由を一方で上げつつも、他方では最終日が2日間連続であったことが身体的につらかったことが指摘されている。

#### (2) 受講の動機について

基本的には、職務や業務、自己の専門性の向上に関する記述が最も多かった。この他の特徴的な記述としては、「社会教育士の称号を取得するため」といった新たな称号の付与と取得について言及するもの、新設の2科目への関心を示すもの、香川大学が令和元年度に実施した社会教育主事講習を受講したことをきっかけとするものなどがあつた。実際に、今回の受講者17名のうち、10名は令和元年度の講習の受講者であり、「熱があるうちに」、「忘れてしまわないうちに」といった記述も散見された。社会教育に関する継続的な学習の場を求めている層の存在が示されているといえる。

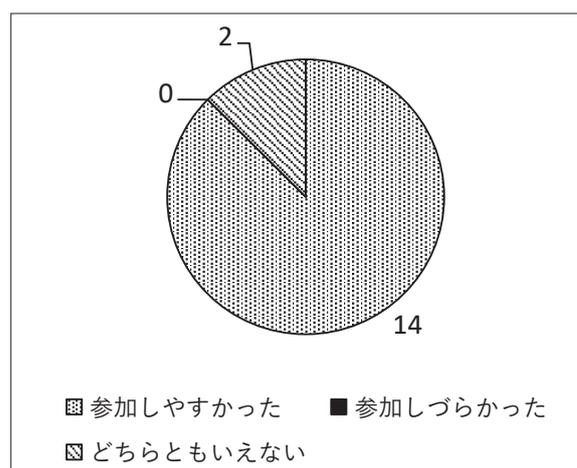


図1 「今回の講習の日程の設定についてどのように感じましたか」への回答分布

また、業務との関わりとして、学校と地域との連携・協働に言及するものもあり、「地域とともにある学校」、「社会に開かれた教育課程」、「地域学校協働活動」などといったフレーズを示しながら学校教育と社会教育との関わりを学ぶことに対する関心などが示されていた。本講習では、学校教育と社会教育との関わりを取り扱う講義もあるとはいえ、講習全体における割合は必ずしも高いとは言えない。受講者によっては、こうした具体的な業務や活動を念頭においた学習の需要があり、その点を講習の受講の動機としてあげる者があった。

## IV 各教科の内容と成果について

### (1) 社会教育経営論について

社会教育経営論の理解度について3名が「理解できた」と回答し、13名が「だいたい理解できた」と回答した（表2）。本講習が社会教育主事講習あるいは養成課程の修了者を対象とした一部科目指定講習であることから、全体的な理解度は高かったといえる。

また、アンケート調査では社会教育経営論を受講して得られた成果について受講者の自己評価を実施するべく、以下の①から④までの目標を設定し、それぞれについて4段階の尺度を設定した（表3）。この4つの目標は、文部科学省「社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令の施行について（通知）」（平成30年2月28日）の「3 留意事項」から、「社会教育経営論について」の内容を参考に設定した。

いずれの目標についても、「あてはまる」「ややあてはまる」が大半を占めていたが、①と②の知識と技能が身についたかどうかに関する目標については、「あまりあてはまらない」が1件ずつあった。自由記述欄の内容と照らし合わせると、社会教育経営論の感想として座学が多かったことが指摘されており、理論を実践に反映させる方法を学ぶような演習形式の学習活動への期待が寄せられている。社会教育経営論については、知識や技能に関する学習内容について、その知識や技能を活用する場面までを意識して構成するなど、今後の授業設計の中で留意すべきポイントが浮かび上がった。

表2 社会教育経営論全体の理解度に関する質問と回答の分布

社会教育経営論全体の理解について	理解できた	3
	だいたい理解できた	13
	あまり理解できなかった	0
	理解できなかった	0

表3 社会教育経営論の学習成果に関する実感への回答分布

①地域の多様な主体との連携・協働に向けて必要な知識や技能が身についた。	あてはまる	6
	ややあてはまる	9
	あまりあてはまらない	1
	あてはまらない	0
②学習成果を地域課題解決などにつなげる知識や技能が身についた。	あてはまる	7
	ややあてはまる	8
	あまりあてはまらない	1
	あてはまらない	0
③PDCAサイクル等のマネジメントの視点をもって事業の展開を図る意義を理解できた。	あてはまる	10
	ややあてはまる	6
	あまりあてはまらない	0
	あてはまらない	0
④クラウドファンディングなど多様な手法による資金調達について知ることができた。	あてはまる	11
	ややあてはまる	5
	あまりあてはまらない	0
	あてはまらない	0

## (2) 生涯学習支援論について

生涯学習支援論の理解度について4名が「理解できた」と回答し、11名が「だいたい理解できた」と回答した(表4)。社会教育経営論と同様に、すべての受講者が社会教育主事講習や社会教育主事養成課程などを修了していたこともあり、全体的な理解度は高かったといえる。

また、生涯学習支援論を受講して得られた成果について、社会教育経営論と同様に、文部科学省「社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令の施行について(通知)」(平成30年2月28日)の「3 留意事項」から、「生涯学習支援論について」の内容を参考にしながら、①から④までの目標を設定し、それぞれについて4段階の尺度を設定した(表5)

いずれの目標についても、「あてはまる」「ややあてはまる」が大半を占めているが、社会教育経営論と同様に②と④の技能や手法の習得に関する目標については、「あまりあてはまらない」が2件ずつあった。自由記述欄の内容と照らし合わせると、「ファシリテーションの技能が身についたかは実際に行わないと判断できない」という回答があるように、実際に取り組んでみない限りは評価が難しいということだった。限られた講習期間のなかで、いかに実感の伴う学びを創出していくかが今後の検討課題といえる。

表4 生涯学習支援論全体の理解度に関する質問と回答の分布

生涯学習支援論全体について	理解できた	4
	だいたい理解できた	11
	あまり理解できなかった	0
	理解できなかった	0

表5 生涯学習支援論の学習成果に関する実感への回答分布

①学習者の特性に応じた学習支援の方法に関する知識が身についた。	あてはまる	5
	ややあてはまる	10
	あまりあてはまらない	0
	あてはまらない	0
②ファシリテーションの基本的な手法が身についた。	あてはまる	5
	ややあてはまる	8
	あまりあてはまらない	2
	あてはまらない	0
③学習内容や対象との関連を意識してファシリテーションを展開する意義を理解できた。	あてはまる	8
	ややあてはまる	7
	あまりあてはまらない	0
	あてはまらない	0
④人々の主体的な参画を促すファシリテーションに必要な知識や技能が身についた。	あてはまる	3
	ややあてはまる	10
	あまりあてはまらない	2
	あてはまらない	0

## V 講習全般について

講習中に不便と感じたこと、その他、気づいたこと、気になったことという2点については、主に学習環境への指摘が寄せられた。なかでも、コロナ禍における学習環境づくりという観点から行った措置が、学習の妨げとなってしまったケースとして、マスク着用のため声が聞きづらかったこと、授業後に受講者同士で情報交換を行う会食ができなかったことなどが挙げられた。そのほかに、授業の構成として、受講者同士の関係作りを初回から取り組むべきだったことなども指摘されており、コロナ禍で講習を実施するうえで重視すべきポイントがある程度示された。

また、受講後の主だった感想としては、コロナ禍という状況下でも講習を開催したことへの感謝や、受

講師同士のつながりができたことへの喜びと再会への希望、学習した内容を実践していくことの必要性、視野や思考が狭まっていたことへの気づきなどが記されていた。

## VI まとめ

今回の社会教育主事講習（一部科目指定講習）の受講者を対象としたアンケートの回答結果から見えてきた知見について、以下にまとめていく。

まず、日程に関する回答結果から、学習者は業務や職場への影響を最優先に考え、なるべく影響が少ない日程や時間帯での開催を望んでいた。一方で、月に1回など低い学習頻度での実施によって、前回学習した内容を忘れてしまうなどして、知識が定着しづらくなる可能性も考えられるものの、他方では、ゆとりのある日程の設定が講習への参加のしやすさだけでなく、「ゆったり学ぶことができた」という意見のように、学習のしやすさにもつながっていく場合があることがわかった。企画者側は、日程ひとつをとってもこうした需要があることを受け止め、今後の企画に活かしていく必要がある。そのためにも、早期の段階で講師との日程調整に取り組んでいくことは優先的に実施されるべきだろう。

受講動機に関する回答結果からは、社会教育士という新たな称号への期待と関心の高さに加え、継続的な学習機会を提供することの重要性が垣間見られた。また、受講者にとっては、必ずしもすべての科目が学習需要と合致していなければならないというよりも、「学校との協働」などといった、特定の業務や活動を念頭においた学習の需要がカバーされているかどうかという点が、受講の動機となる場合もあることがわかった。講習ではどのような内容を扱うのか、講習を受講することによって、どのような分野の学びがどの程度得られるのか、などといった点を広報の段階からアピールすることで、講習と受講希望者とのマッチングを促進することができると考えられた。

各教科の内容と成果に関する回答結果からは、社会教育経営論・生涯学習支援論ともに、知識や技能に関する学習を経たのちに、その学びを実際に活用することができるかという実践の場面までを意識すること、学習者にとって実感の伴う学びを目指すことが求められていると考えられた。そのためには、ケースワークや受講者の職務とのかかわりを考えさせるワークなど、具体的な場면을想定した学習方法を取り入れるなどの工夫が有用となるのではないだろうか。

最後に、講習全般に関する回答結果には、社会教育主事講習によって得られた成果の一部が端的に示されていた。それは、受講者同士がつながって得られる人間関係の広がり、学習内容を通じて得られる視野・思考の広がりであった。

以上の知見は、現職者を対象とした一般的な講習すべてに共有される知見としてもとらえなおすことができる。近年は、学習によって得られた知識や技能が、即座に現場で応用できるかどうかというところばかりが問われることも少なくない。その一方で継続的に変化する現場に対応する力が求められる場面も少なくない昨今においては、学習への継続的なモチベーションを引き出しあうような、学びあい支えあう仲間を獲得することも非常に重要な学習の成果といえる。

本稿では、令和2年度の社会教育主事講習（一部科目指定講習）の取り組みと、アンケート調査を通じて明らかになった課題や需要を記録し、今後の事業の継続と発展に向けて考察を行ってきた。地域連携・生涯学習センターでは、令和2年度の反省を踏まえ、令和3年度の社会教育主事講習（一部科目指定講習）を実施しているところである。継続的な取り組みを支えあえるような仲間を学内外で得ることは、企画者側にとっても大きな課題であり、協力者が増えていくことは大きな成果となる。受講者だけでなく、事業そのものを育てていくような視点をもって、引き続き実践に励んでいきたい。

<参考資料>アンケート調査の調査票

## 令和2年度社会教育主事講習（一部科目指定講習） アンケート調査

本講習を振り返って、どのような感想をもたれたか、率直なご意見をお聞かせ下さい。今後の社会教育主事講習の見直しにむけた貴重な資料としても活用させていただきます。

### I. 日程について

(1) 今回の講習の日程の設定についてどのように感じましたか（○はひとつ）。

1. 参加しやすかった    2. 参加しづらかった    3. どちらともいえない

(2) (1) の回答の理由は何ですか。自由にご記入下さい。

### II. 受講の動機について

今回の講習の受講動機について、自由にご記入下さい。

### III. 各教科の内容と成果について

(1) 社会教育経営論全体について当てはまるものを選び、ひとつ○をつけてください。

1. 理解できた    2. だいたい理解できた    3. あまり理解できなかった    4. 理解できなかった

(2) ①から④について、実感として該当する数字に○をつけてください。

①地域の多様な主体との連携・協働に向けて必要な知識や技能が身についた。

1. あてはまる    2. ややあてはまる    3. あまりあてはまらない    4. あてはまらない

②学習成果を地域課題解決などにつなげる知識や技能が身についた。

1. あてはまる    2. ややあてはまる    3. あまりあてはまらない    4. あてはまらない

③PDCA サイクル等のマネジメントの視点をもって事業の展開を図る意義を理解できた。

1. あてはまる    2. ややあてはまる    3. あまりあてはまらない    4. あてはまらない

④クラウドファンディングなど多様な手法による資金調達について知ることができた。

1. あてはまる    2. ややあてはまる    3. あまりあてはまらない    4. あてはまらない

(裏面もあります)

<参考資料>アンケート調査の調査票

(3) 社会教育経営論について改善点があれば、自由にご記入下さい。

(4) 生涯学習支援論全体について当てはまるものを選び、ひとつ○をつけてください。

1. 理解できた      2. だいたい理解できた      3. あまり理解できなかった      4. 理解できなかった

(5) ①から④について、実感として該当する数字に○をつけてください。

①学習者の特性に応じた学習支援の方法に関する知識が身についた。

1. あてはまる      2. ややあてはまる      3. あまりあてはまらない      4. あてはまらない

②ファシリテーションの基本的な手法が身についた。

1. あてはまる      2. ややあてはまる      3. あまりあてはまらない      4. あてはまらない

③学習内容や対象との関連を意識してファシリテーションを展開する意義を理解できた。

1. あてはまる      2. ややあてはまる      3. あまりあてはまらない      4. あてはまらない

④人々の主体的な参画を促すファシリテーションに必要な知識や技能が身についた。

1. あてはまる      2. ややあてはまる      3. あまりあてはまらない      4. あてはまらない

(6) 生涯学習支援論について改善点があれば、自由にご記入下さい。

IV. 講習全般について

(1) 講習中に不便なことはありませんでしたか。改善や要望など、自由にご記入下さい。

(2) その他、気づいたこと、気にかかったことについて、自由にご記入下さい。

ご協力、ありがとうございました。

(文責：大村隆史)